

キイロスズメバチ

2015年9月1日

我が家では毎年キアシナガバチが巣作りする。ハスの実のような巣で外皮がなく育房が露出してすぐわかる。いつも小さな巣で数匹だけ出はいる。攻撃されないで今まで静かに見守ってきた、もちろん刺されたことはない。(フォトエッセイ 9/1 アシナガバチ 2種参照)

今年は違った、2回刺される。最初は7月29日17時頃、裏の土手に落ち葉を捨てるときに人差し指を刺された。すぐ「ムヒ」を塗り、痛み止めに「ロキソプロフェン Na 錠」を飲む、6時間は効くはず、あとは冷やすだけ。痛みは我慢の限界を超え就寝まで続く。それでも翌朝にはほぼ収まった。2倍の太さに腫れた指は翌日の夕方にはほぼ戻った。

次は8月8日14時ごろ、前回の場所から3分ほど離れた場所で草刈りを始めてすぐに額を刺された。やはり「ムヒ」を塗り、痛み止めに「ロキソニン」を飲む、あと冷やすだけ。今回は前回より痛みは我慢できる範囲にとどまる、薬の違いだろう。それでも6時間後は我慢できなくなり1錠飲む、痛みは就寝まで続くが翌朝にはほぼ収まった。腫れは3日目ピークとなり目を開くのが大変なほどだった。

巣にいたずらしめないのに刺されるとは、今まで共存してきたのに残念！今年のキアシナガは攻撃性が強い？まことに不思議だった！

そのあと1度襲われたが刺されなかった。今年は何かおかしい！気をつけていると2回目に刺された場所にある物置小屋の通風口を出はいるのを発見する。遠出の予定があり刺されて中止になると叱られる、暫く様子を見ることにする、もちろん近づかない。

8月30日、片道250kmを日帰りする。あとは用事無し、万一刺されても何とかなるだろう。

31日10時、武装して巣の除去にとりかかる。細君が心配して用意したハチアブハンターと懐中電灯を手にして扉を開く。なんと通風口にトイレットペーパー2個分ほどある外皮で覆われた巣、スズメバチだ！スプレーをふりかけ一旦収納袋を取りに戻る。とりあえず鮎タモを小脇に挟み、ゴム手の両手で巣をもぎ取りタモに入れる。

外に持ち出し地面に置いてスプレーの残りをふりかける、中身はすぐなくなった。

① 死骸を写す、全部で12匹、まだ巣の中に十数匹いるだろう、② 巣の写真を撮り急いでナイロン袋に入れキンチョールをふりかけ封をする。見ると通風口付近で数匹飛び交っている、ごめんなさい！③ 1匹つまんで観察する。(写真のハチと巣は薬品で少し黒ずむ)

色から判断してキアシナガバチだろうと決めていた、キイロスズメバチとは驚きだ！ハチの中で最大の巣を作る、地方名「アカバチ」と呼ばれ巣に近づいただけで攻撃する、激痛のはずだ！前回スズメバチと分かっていたら、アナフィラキシーショックを少しは心配しただろう、気づかないで良かった？キアシナガバチに刺された小学生の頃は「オシッコ」だけで我慢したはず、いままでの疑問がすべて解決した。

翌日、④ 巣の大きさを測る。大きさは11x18センチ、重量は130gあった。トップの小さいのが4層目。⑤ 割って見ると巣盤が3層で卵もある、幼虫は動いている、蛹は白いふたの中だ。上盤に10匹、中盤に30+蛹20匹、下盤に20+蛹20匹。空室の3倍が働き蜂数？残った成虫で微かに動いているのもいた。ピンセットでつまんで数えてみる、巣にいたのは40匹、全部で52匹となる。女王蜂が見つからない、働きバチは2割ほどだから3割はあるはず、女王蜂のいないコロニー？ハチは冬になるとすべて死ぬ、新しい女王蜂でスタートする。⑥ もしかしたら産卵中のあなたが女王蜂さん？



①



②



③



④



⑤



⑥